

授業科目名： 情報セキュリティ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井進 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 暗号方式の基本概念、動作原理、利用方法が説明できる。</p> <p>(2) 公開鍵インフラストラクチャの概念、仕組みを理解し、利用方法や問題の解決策を示せる。</p> <p>(3) 本人認証の各方式の概念、仕組み、相違を説明できる。</p> <p>(4) ネットワークシステムにおける不正、脅威、リスクの概念や対策の具体例、社会的な影響を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義の前半では、情報セキュリティの基礎、何が危なく（脅威、脆弱性）、それをどのように守るか（対策、実践）について基本的な考え方を学ぶ。後半では、個々の情報セキュリティ対策技術についての概念、目的や効果について理解する。またセキュアなシステムを開発する際の留意点や、関連する法制度についても理解を深める。また、情報セキュリティ技術の適用分野が広がっており、情報科学に携わる研究者、技術者にとって、その基礎技術の修得が重要となってきている。本講義では情報システムにおけるセキュリティ上の問題の所在とその対策の理解を目標として、不正や脅威の具体例、ネットワークを介した取引やサービスを安全に提供するための暗号、認証などの要素技術とその適用方法、およびセキュアなシステム構築のためのシステム技術などを解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報社会におけるセキュリティ</p> <p>第2回：秘密鍵暗号</p> <p>第3回：公開鍵暗号の概要と素数</p> <p>第4回：RSA暗号(1)</p> <p>第5回：RSA暗号(2)</p> <p>第6回：楕円曲線暗号</p> <p>第7回：公開鍵インフラストラクチャ</p> <p>第8回：メッセージ認証とデジタル署名</p> <p>第9回：セキュリティプロトコル</p> <p>第10回：アクセス制御</p> <p>第11回：ネットワークセキュリティ</p> <p>第12回：アプリケーションセキュリティ</p>			

第13回：不正プログラム

第14回：バイオメトリクス認証

第15回：ブロックチェーンとセキュリティ

定期試験

テキスト

情報セキュリティの基礎（佐々木良一 著、共立出版）

参考書・参考資料等

情報・符号・暗号の理論（今井秀樹 著、コロナ社）

学生に対する評価

授業中に提出を求める小テスト（30%）、定期試験（70%）により総合的に評価する。

授業科目名： 画像解析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田陽一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 視覚情報処理をコンピュータにより行うための基礎的技術を身につけることを目的とする。			
授業の概要 画像は人間にとって重要な情報の一要素である。そして人間の視覚は、脳による高度な情報処理により我々に有用な情報を与えてくれる。本講義では、その視覚情報処理をコンピュータにより行うための基礎的技術を身につけることを目的とする。具体的には、工学的な画像情報処理技術に関する基礎的な知識を説明した後、従来のコンピュータによる画像認識（パターン認識）技術、深層学習や大規模言語モデルによる画像認識技術、動画画像処理技術等について講述する。			
授業計画 第1回：講義ガイダンス：講義の全体像と目的について 第2回：デジタル画像と座標系について 第3回：画像の表現手法について 第4回：画素ごとの情報処理手法について 第5回：画像の領域情報に基づくフィルタリングについて 第6回：周波数領域におけるフィルタリングについて 第7回：画像の復元手法について 第8回：画像の幾何学的変換手法について 第9回：2値画像処理について 第10回：動画画像処理について 第11回：3次元画像処理について 第12回：パターン認識による画像認識 第13回：深層学習および大規模言語モデルによる画像認識について 第14回：画像の符号化と評価 第15回：画像処理技術の応用 定期試験			
テキスト OpenCVによる画像処理入門（小枝正直 上田悦子 中村恭之 著、講談社）			
参考書・参考資料等			

ビジュアル情報処理 (CG-ARTS、画像情報教育振興協会)

デジタル画像処理 (CG-ARTS、画像情報教育振興協会)

学生に対する評価

授業態度 (10%) とレポート提出 (30%), 期末試験の総合評価 (60%)

授業科目名： コンピュータグラフィックス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田陽一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 座標変換や色表現などのコンピュータグラフィックスの基礎的な知識を習得することにより、3次元空間情報の表現技術を習得する。			
授業の概要 情報処理技術、特にグラフィック関連技術の進歩に伴い、コンピュータグラフィックス（CG）は大変身近なものとなった。そのため以前は情報処理速度との戦いであったCG技術において、人間に提示する情報の質や内容を検討する必要も生じている。視覚情報が人間の心理や生理とも密接に関わっているためである。本講義では、座標変換や色情報の表現手法などのCGの基礎的な知識の習得からはじめ、3次元空間情報の表現技術を学ぶ。そして、最後に人間に提示すべき情報について議論する。			
授業計画 第1回：講義ガイダンス：講義の概要と目的について 第2回：コンピュータグラフィックスの概要について 第3回：コンピュータグラフィックスに必要な数学について 第4回：座標変換について 第5回：3次元図形処理について 第6回：3次元形状表現について 第7回：自由曲線と自由曲面について 第8回：質感の付加について 第9回：光の反射モデルについて 第10回：照明計算について 第11回：レイトレーシングについて 第12回：アニメーション技術について 第13回：人工現実感技術について 第14回：コンピュータグラフィックス技術の応用について 第15回：講義の総括 定期試験			
テキスト コンピュータグラフィックスの基礎（宮崎大輔 床井浩平 結城修 吉田典正、オーム社）			

参考書・参考資料等

ビジュアル情報処理 (CG-ARTS、画像情報教育振興協会)

学生に対する評価

授業態度 (10%) とレポート提出 (30%), 期末試験の総合評価 (60%)

授業科目名: マルチメディア論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:小方孝 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 マルチメディアデータの処理技術や制作手法を身につける。			
授業の概要 テキスト、音声、画像などで構成されるマルチメディアの技術や制作手法の基礎を学ぶ。			
授業計画 第1回:マルチメディア論のガイダンスと授業参加の事前準備 第2回:マルチメディア処理の概要(イントロダクション) 第3回:テキストと自然言語処理 第4回:音声情報処理 第5回:画像情報処理 第6回:映像処理と符号化 第7回:マルチメディア技術と深層学習 第8回:マルチメディア技術の応用 第9回:マルチメディア・コンテンツ表現のためのクリエイティブ・テクノロジーとナラティブ・テクノロジー 第10回:シナリオ・ストーリー・プロット 第11回:キャラクター 第12回:言語・映像・音楽等のマルチメディア表現 第13回:面白さ 第14回:生成AIのクリエイティブ・コンテンツ制作への応用(1) 第15回:生成AIのクリエイティブ・コンテンツ制作への応用(2) 定期試験なし			
テキスト 各回授業の際に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 各回授業で課される課題(レポート等)への取り組みにより成績を評価する。			

授業科目名： 情報メディア論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小方孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：情報メディア論の諸相と認知科学/AI、ナラティブ・テクノロジーによる諸ジャンルのメディア表現の分析と生成。</p> <p>到達目標：情報メディア論の関連理論を理解し知識を習得する/認知科学とAI，ナラティブテクノロジーを理解し知識を習得する/様々なメディアとコンテンツの分析と生成に関する研究・開発についての知識を習得し、デザインと応用に関する考察能力を涵養する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報メディア論への諸アプローチや基礎概念や、本授業の背景として認知科学/AIとナラティブテクノロジーを紹介した上で、言語・映像・文学・ゲーム・広告・音楽・演劇等具体的ジャンルにおけるメディアとコンテンツの分析と生成について論じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：（情報メディア論への様々なアプローチ）情報メディア論への人文・社会的、科学的・工学的アプローチを総覧し、本授業のスタンスを紹介する。</p> <p>第2回：（情報メディアの種類と多層性）情報メディアの歴史、種類、多層性等の基礎的問題を議論する。</p> <p>第3回：（メディアとコンテンツ）現代社会において、道具としてのメディアと作品としてのコンテンツとは密接に結びついている。二つの区別と関係について述べる。</p> <p>第4回：（認知科学とAI）情報メディアを分析・生成（制作）するための基礎理論の一として、認知科学とAI（人工知能）について概説する。</p> <p>第5回：（ナラティブ・テクノロジー）情報メディアを分析・生成（制作）するための基礎理論の二として、物語生成等ナラティブ（物語）・テクノロジーを紹介する</p> <p>第6回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（1）—言語）認知科学とAIによる、言語や比喩の分析・生成研究について紹介する。</p> <p>第7回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（2）—映画）認知科学とAIによる、映画や映像芸術の分析・生成研究について紹介する。</p> <p>第8回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（3）—文学）認知科学とAIによる、詩や小説の分析・生成研究について紹介する。</p> <p>第9回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（4）—ゲーム）認知科学とAIによる、テレビゲームの分析・生成研究について紹介する。</p> <p>第10回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（5）—広告1）認知科学</p>			

とAIによる、映像広告の分析・生成研究について紹介する。

第11回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（6）—広告2）認知科学とAIによる、映像広告の分析・生成研究について紹介する。（続）

第12回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（7）—ASD・障害者支援）認知科学とAIを援用した、ASDの行動・思考分析や障害者支援研究について紹介する。

第13回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（8）—音楽）認知科学とAIによる、音楽の分析・生成研究について紹介する。

第14回：（認知科学とAIによるメディアとコンテンツへのアプローチ（9）—演劇と歌舞伎）認知科学とAIによる、演劇や歌舞伎の分析・生成研究について紹介する。

第15回：（まとめ）本授業全体をまとめる。必要なら不足の部分を補足する。

定期試験

テキスト

ポストナラトロジーの諸相—人工知能の時代のナラトロジーに向けて1（小方孝 編著、新曜社）

参考書・参考資料等

随時紹介・指定

学生に対する評価

筆記試験（80%）、その他小試験（20%）

授業科目名: 中等教科教育法(情報) I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:光永 文彦 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校共通教科および専門教科「情報」の教育目標, 内容を理解している ・育むべき資質・能力を理解し, 情報教育の体系的・系統的カリキュラムを理解している ・ICT を利活用する意義や理論を理解し, 学習指導や校務に位置づけて説明できる ・授業を行う上で必要な教材研究や授業設計・実施・評価・改善能力を修得している 			
授業の概要			
<p>この授業では, 高等学校「情報」の目的・内容ならびに授業の方法について, 「不易」となる基礎的な知識と, 「流行」となる実践的なスキルを, 共通教科・専門教科問わず, 主体的・対話的で深い学びで育みたい資質や能力について考え, 紐解きながら, 授業づくりのプロセスや学習環境, 学習指導の形態などを学ぶ。また, 情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について, その構成要素および具体的な指導法, 教育課程上の位置づけについて解説する。学生は授業場面での教育メディアの利用を通じて, 自らの ICT 利活用能力の向上をはかるとともに, 教育効果を高めるための情報機器及び教材, 学習履歴の利活用や指導技術についても修得し, 学び続ける力を育成する方法を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回:オリエンテーション(授業概要及び学習目標の解説)・情報科の役割と変遷・生成系 A.I.			
第2回:共通教科「情報」の構成とカリキュラム			
第3回:専門教科「情報」の構成とカリキュラム			
第4回:情報科における授業設計 ① 目標設定・評価方法			
第5回:情報科における授業設計 ② 学習活動・指導方法・主体的・対話的で深い学び			
第6回:情報科における学び ①「情報Ⅰ」情報社会の問題解決			
第7回:情報科における学び ②「情報Ⅱ」情報社会の進展と情報技術			
第8回:情報科における学び ③「情報Ⅰ」コミュニケーションと情報デザイン			
第9回:情報科における学び ④「情報Ⅱ」コミュニケーションとコンテンツ			
第10回:情報科における学び ⑤「情報Ⅰ」コンピュータとプログラミング			
第11回:情報科における学び ⑥「情報Ⅱ」情報システムとプログラミング			
第12回:情報科における学び ⑦「情報Ⅰ」情報通信ネットワークとデータの活用			
第13回:情報科における学び ⑧「情報Ⅱ」情報とデータサイエンス			

第14回:情報科における学び ⑨「情報Ⅰ・Ⅱ」情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

第15回:まとめ(到達度評価と解説)・教科横断的な学びとカリキュラムデザイン

定期試験

テキスト

高等学校学習指導要領解説 情報編(平成30年7月 文部科学省)、高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材(文部科学省)、高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材(文部科学省)

参考書・参考資料等

情報科教育法(改訂3版)(久野靖 辰巳丈夫 著、オーム社)

ICT 活用の理論と実践 — DX 時代の教師をめざして — (稲垣忠 他20名 著、北大路書房)

学生に対する評価

授業内課題 30%, レポート課題 30%, 定期試験 40%

授業科目名： 中等教科教育法（情報）Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：光永 文彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報科の目標，体系的・系統的な背景を踏まえた授業を設計，実践できる ・板書計画，発問，演示教材の選定，その授業を受けた生徒の学びを想定できる ・ICT を利活用する意義や理論を理解し，学習指導や校務に位置づけて運用できる ・授業を行う上で必要な教材研究や授業設計・実施・評価・改善能力を修得している 			
授業の概要			
<p>この授業では，高等学校「情報」の目的・内容ならびに授業の方法について，「不易」となる基礎的な知識と，「流行」となる実践的なスキルを，共通教科・専門教科問わず，主体的・対話的で深い学びで育みたい資質や能力について考え，紐解きながら，授業づくりのプロセスや学習環境，学習指導の形態など実際に授業を行う中で感得する。また，情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について，その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置づけについて解説する。学生は授業場面での教育メディアの利用を通じて，自らの ICT 利活用能力の向上をはかるとともに，教育効果を高めるための情報機器及び教材，学習履歴の利活用や指導技術についても修得し，学び続ける力を育成する方法を身につける。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業概要及び学習目標の解説）・情報科の先生の日常			
第2回：情報科学習指導案①内容・評価，深い学び			
第3回：情報科学習指導案②教材観・指導観，対話的な学び			
第4回：情報科学習指導案③指導計画の書き方，主体性のある学び			
第5回：情報科学習指導案④板書計画による授業案づくり，学びを深める授業設計			
第6回：情報科学習指導案⑤本時案の書き方，学びを深めるための対話と授業			
第7回：情報科学習指導案作成①学び手の主体性を重視した授業			
第8回：模擬授業①「情報Ⅰ」4分野（各班で分担実施）			
第9回：情報科学習指導案作成②新しい学びの評価手法と考え方			
第10回：模擬授業②「情報Ⅱ」4分野（各班で分担実施）			
第11回：情報科学習指導案作成③研究授業と授業研究			
第12回：模擬授業③「専門教科 情報」12科目（各班で分担実施）			
第13回：情報科学習指導案作成③教科横断的・探究的な学びのデザイン			

第14回：模擬授業④「理数探究基礎」「理数探究」2科目（各班で分担実施）

第15回：まとめ（到達度評価とふりかえり）・情報科の授業とはなにか

テキスト

高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材（文部科学省）

高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材（文部科学省）

主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック（大島純・千代西尾祐司 他 著、北大路書房）

参考書・参考資料等

情報科教育法(改訂3版)(久野靖 辰巳丈夫 著、オーム社)

ICT 活用の理論と実践 ― DX 時代の教師をめざして ―（稲垣忠 他20名 著、北大路書房）

学生に対する評価

授業内課題 30%， レポート課題 10%， 模擬授業・フィードバックへの議論 60%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：倉橋 弘 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 憲法の基本的な知識と内容を習得し、社会の中での憲法に関わる問題を理解して、憲法上の争点を理解できるようにする。			
授業の概要 憲法は国のあり方と国民の権利・自由の保障に関わる最高法規である。授業では憲法に関する知識の詰め込みに終始することなく、憲法の理念を適切に理解するために、習得すべき基本的な内容をわかりやすく解説する。			
授業計画 第1回:オリエンテーション 第2回:日本国憲法の成り立ち 第3回:日本国憲法の全体像。 第4回:生きづらい人々の人権問題について 第5回:包括的基本権、個人の尊重、法の下での平等について 第6回:思想・良心の自由について 第7回:信教の自由、政教分離について 第8回:表現の自由について 第9回:経済的自由について 第10回:人身の自由 第11回:社会権について 第12回:国民主権と選挙について 第13回:国会について 第14回:内閣について 第15回:裁判所について 定期試験 筆記試験を実施する			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 スタート憲法（吉田仁美 編、成文堂） 憲法判例50（上田健介 尾形健 片桐直人 著、有斐閣）			
学生に対する評価 定期試験80% 授業終了後の課題20%			

授業科目名： スポーツ I	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 1 単位	担当教員名：安田 勇喜 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 仲間と協力しながら身体活動の楽しさを感じ取る 2. 生涯スポーツの実践のための知識や態度を習得する 3. スポーツを通して人・仲間・地域づくりを体得する 			
授業の概要			
<p>現代社会におけるスポーツの力（する・みる・支える）や意義を理論と実技を通して強く逞しいクリエイティブな生き方を習得する。体力づくりや基本的なトレーニングの基礎を自らの身体を持って体得する。各種スポーツの基本的技能や知識（ルール、戦術、審判法、コーチング法）を習得し、個人やチームで試合ができるようにする。スポーツの楽しさとフェアプレーを体験するとともに、スポーツによる人づくり・仲間づくりを体得し、生涯に亘るスポーツの生活化とスポーツフォベターライフのスキルを習得する。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス オリエンテーション（グループ分け）			
第2回 バレーボール1 基礎練習1（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）・6人制ルール			
第3回 バレーボール2 基礎練習2（レシーブ・サーブ）・簡易ゲーム			
第4回 バレーボール3 基礎練習3（パス・スパイク・連携プレイ）・簡易ゲーム			
第5回 バレーボール4 ゲームを実践する：基礎練習・簡易ゲーム			
第6回 バレーボール5 ゲームを実践する：基礎練習・審判法・ゲーム（リーグ戦）			
第7回 バレーボール6 ゲームを実践する：基礎練習・審判法・ゲーム（リーグ戦）			
第8回 バレーボール7 ゲームを実践する：基礎練習・審判法・ゲーム（リーグ戦）			
第9回 バトミントン1 基礎練習1（基礎的な技術を身につける）・ルール			
第10回 バトミントン2 基礎練習2（ストロークの練習）			
第11回 バトミントン3 基礎練習3（サービスの練習）			
第12回 バトミントン4 ゲームを実践する：基礎練習・簡易ゲーム（ダブルス）			
第13回 バトミントン5 ゲームを実践する：基礎練習・ゲーム（ダブルス・リーグ戦）・審判法			
第14回 バトミントン6 ゲームを実践する：基礎練習・ゲーム（ダブルス・リーグ戦）・審判法			
第15回 バトミントン7 ゲームを実践する：基礎練習・ゲーム（ダブルス・リーグ戦）・審判法			
定期試験は行わない			
テキスト			
適宜プリントを配布			

参考書・参考資料等

特に指定なし

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、授業態度（20%）、授業ノート（50%）

授業科目名： スポーツⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名：安田 勇喜 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 仲間と協力しながら身体活動の楽しさを感じ取る 2. 生涯スポーツの実践のための知識や態度を習得する 3. スポーツを通して人・仲間・地域づくりを体得する 			
授業の概要			
<p>スポーツⅠを発展させ、各種スポーツの基本技能や知識、ルール、戦術、トレーニング法、審判法、コーチング法等を毎時間ノートにまとめる。個人やチームで試合ができるようにする。スポーツの楽しさとフェアプレーを体験するとともに、スポーツによる人・仲間・地域づくりを体得し、生涯に亘るスポーツの生活化とスポーツフォベターライフのスキルを習得し、スポーツ基本法に謳われている「スポーツでもっとも幸せな国へ」の生き方を自ら実践する。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス オリエンテーション：3種目（ソフトバレー・バドミントン・卓球）のうち2種目選択・グループ分け）			
第2回 選択種目1—① 選択種目の基礎練習1とルール・基礎的な技術1			
第3回 選択種目1—② 選択種目の基礎練習2と基礎的な技術2			
第4回 選択種目1—③ 選択種目の応用練習（応用的な技術）			
第5回 選択種目1—④ 選択種目のゲームを実践する（簡易ルールおよび審判法）			
第6回 選択種目1—⑤ 選択種目のゲームを実践する（通常ルールで実践）			
第7回 選択種目1—⑥ 選択種目のゲームを実践する（通常ルールで実践・リーグ戦）			
第8回 選択種目1—⑦ 選択種目のゲームを実践する（通常ルールで実践・リーグ戦）			
第9回 選択種目2—① 選択種目の基礎練習1とルール・基礎的な技術1			
第10回 選択種目2—② 選択種目の基礎練習2と基礎的な技術2			
第11回 選択種目2—③ 選択種目の応用練習（応用的な技術）			
第12回 選択種目2—④ 選択種目のゲームを実践する（簡易ルールおよび審判法）			
第13回 選択種目2—⑤ 選択種目のゲームを実践する（通常ルールで実践）			
第14回 選択種目2—⑥ 選択種目のゲームを実践する（通常ルールで実践・リーグ戦）			
第15回 選択種目2—⑦ 選択種目のゲームを実践する（通常ルールで実践・リーグ戦）			
定期試験は行わない			
テキスト			
適宜プリントを配布			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、授業態度（20%）、授業ノート（50%）

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 1 単位	担当教員名：島末 智明 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英文の中に出てくる英語と日本語の文法・構文・表現上の違いを比較し、言語の裏にある習慣・文化などの違いを考察していく。また、日常生活におけるさまざまな場面で想定される話題に関して、参加型の学習を取り入れるながら英語で意見交換や議論を行う練習を行う。要点を理解し、応答に支障がないレベルにしていく。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大学入学までに習った基礎的な英語文法・語彙・構文を復習し、英語と日本語の発想法の違いを理解することで、日常生活に必要な語彙・文法・構文上の違いを習得し、英語コミュニケーション能力を向上させる。また、仕事、学校、娯楽など、日常生活で出会うさまざまな場面を想定し、ペアワークやグループワーク、ロールプレイなどを取り入れながら、通常の英会話であれば、要点を理解し、応答に支障がないレベルにしていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス Activityを通して本講座の目的・進め方・課題の提示などを説明する</p> <p>第2回 Phonemes 英語と日本語の音声上の違い</p> <p>第3回 Sentence orderと主語</p> <p>第4回 表現の違い①敬語法</p> <p>第5回 表現の違い②提案と拒絶</p> <p>第6回 語彙用法の違い①名詞・代名詞・限定詞</p> <p>第7回 語彙用法の違い②動詞とその時制</p> <p>第8回 第1回目から第7回目までの授業の要点整理・まとめ</p> <p>第9回 語彙用法の違い③前置詞</p> <p>第10回 発想の違い①</p> <p>第11回 発想の違い②</p> <p>第12回 発想の違い③</p> <p>第13回 文法・構文の違い①</p> <p>第14回 文法・構文の違い②</p> <p>第15回 Review</p>			
<p>テキスト、著書名</p> <p>English Composition Based on Comparison between English and Japanes（友繁 義典 著、南雲堂）</p>			

参考書・参考資料等

プリント教材を配布して、授業の幅を広げる。また、適宜、語彙・文法の小テストを実施したり、小エッセイの課題を与えたりする。

成績評価方法

- 活動への参加意欲 及び 課題・Review Testの達成状況 60%
- 学期末試験の達成度 40%

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名：島末 智明 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語Ⅰでの学習内容を元に、日常聞いたり話したりする英語に一層慣れ親しむとともに、読んだり書いたりする力も磨く。さらに教育や社会、職業などやや高度な話題も扱いながら、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。合わせて、自律的に学習し、コミュニケーション活動に積極的に参加しようとする態度を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語Ⅰに引き続き、基礎的な英文法の知識を、読む、書く、聞く、話すの4技能で活かすことができるよう、タスクベースの演習形式での授業を行う。日常会話などの身近な話題だけでなく、やや専門的（学校教育、職業、社会）な話題についても扱う。英語Ⅱでは、自らの考えを発信するだけでなく、読んだり、聞いたりした他の人の考えにつて、重点を整理して話したり書いたりすることができるスキルも身につけさせる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 本講座の目的・進め方・課題・評価等の解説</p> <p>第2回 能動文、受動文</p> <p>第3回 進行形文</p> <p>第4回 完了文</p> <p>第5回 心理表現</p> <p>第6回 時制</p> <p>第7回 英語によるやり取りの実践（1）</p> <p>第8回 第1回から第7回までの振り返り</p> <p>第9回 英語によるやり取りの実践（2）</p> <p>第10回 自己・他者に対する視点</p> <p>第11回 「行く」「来る」の表現と実践</p> <p>第12回 ウチ・ソトの表現</p> <p>第13回 文章の重心</p> <p>第14回 接続表現</p> <p>第15回 ここまでの学習の振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>English Composition Based on Comparison between English and Japanese（友繁義典 著、南雲堂）</p>			

参考書・参考資料等

プリント教材を配布して、授業の幅を広げる。また、適宜、語彙・文法の小テストを実施したり、小エッセイの課題を与えたりする。

学生に対する評価

- 活動への参加意欲 及び 課題・Review Testの達成状況 60%
- 学期末試験の達成度 40%

授業科目名： AI・データサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：阿部哲也、宮下 鋭也、北村章、松本啓之亮 担当形態：オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>データを扱う基本統計量、データを説明する回帰や相関関係、マイニングツールの使い方、アンケートの分析法などの内容を通してデータリテラシーを修得し、データの活用時に倫理・法律・社会的な留意事項や情報セキュリティ等を考慮する重要性を理解する。さらに様々な適用分野でのディープラーニング（深層学習）を用いた人物同定、音声をテキストに変換する音声認識、他言語間の翻訳などの有用なツールとして利用されている先進な活用事例を用いAI を利活用するための素地を育成する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>デジタル化の進展に伴い、日常生活を取り巻く環境では膨大なデータが生成・蓄積されている。これらビッグデータを適切な方法で処理・解析し、価値ある情報を生み出すことが社会から求められている。近年、データサイエンスやAI（人工知能）がビッグデータから価値ある情報を生み出す基盤として、社会の推進力となると期待されている。そのため本講義では、データサイエンスやAIの入門として、活用事例の紹介、統計・データ解析手法、ディープラーニングなどのトピックスを紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（高田）</p> <p>第2回 データマイニングとテキストマイニングとは（北村）</p> <p>第3回 データマイニングの基礎1（谷川）</p> <p>第4回 データマイニングの基礎2（谷川）</p> <p>第5回 テキストマイニングの体験1（北村、宮下）</p> <p>第6回 テキストマイニングの体験2（北村、宮下）</p> <p>第7回 テキストマイニングを用いたアンケート分析（北村、宮下）</p> <p>第8回 中間まとめ（松本）</p> <p>第9回 ビックデータの収集（松本）</p> <p>第10回 ビックデータの活用と留意事項（松本）</p> <p>第11回 ディープラーニングとは（高田）</p> <p>第12回 ディープラーニングの事例1（高田）</p> <p>第13回 ディープラーニングの事例2（高田）</p> <p>第14回 ディープラーニングの事例3（高田）</p>			

第15回 まとめと総合演習（高田）

定期試験は実施しない

テキスト

特に指定しない。適宜資料等を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じ、適宜文献等を提示する。

学生に対する評価

レポート（50%）、演習課題（50%）

※評価基準は講義内容が理解でき、さらに与えられた演習課題やレポートがまとめられているか、上記割合で評価する。

授業科目名： 情報処理 I A	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名：森 悟 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年、コンピュータを活用するといった情報処理能力がますます重要となってきた。本講義では、政治経済学部での学習に必要な基礎的かつ実用的な情報処理技術について講義ならびに演習を行い、基礎的な情報処理能力を身につけることを目指す。</p> <p>なお、本講義はMOS（Word）試験に対応している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各講義では基本的な情報処理能力を身につけていく。各回の講義で習得したスキルは、小テストとして各項の確認問題を解くことによって確認する。また情報処理能力の定着確認のひとつとしてMOS（Word）模擬試験を自宅学習し、試験結果レポートを提出する。</p> <p>※いずれも提出はLMS（Google Classroom）にて</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 基本操作（Word）</p> <p>第2回 文書の管理（Word）</p> <p>第3回 文字、段落、セクションの挿入と書式設定（Word）</p> <p>第4回 表やリストの管理（Word）</p> <p>第5回 参考資料の作成と管理（Word）</p> <p>第6回 グラフィック要素の挿入と書式設定（Word）</p> <p>第7回 文書の共同作業の管理（Word）</p> <p>第8回 総復習（Word）</p> <p>定期試験実施なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）（富士通エフ・オー・エム 著、FOM出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、各回の小テスト（練習問題、確認問題）および模擬試験の成績にて、総合評価する（100%）</p>			

授業科目名： 情報処理 I B	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名：森 悟 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年、コンピュータを活用するといった情報処理能力がますます重要となってきている。本講義では、政治経済学部での学習に必要な基礎的かつ実用的な情報処理技術について講義ならびに演習を行い、基礎的な情報処理能力を身につけることを目指す。</p> <p>なお、本講義はMOS（Excel）試験に対応している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各講義では基本的な情報処理能力を身につけていく。各回の講義で習得したスキルは、小テストとして各項の確認問題を解くことによって確認する。また情報処理能力の定着確認のひとつとしてMOS（Excel）模擬試験を自宅学習し、試験結果レポートを提出する。</p> <p>※いずれも提出はLMS（Google Classroom）にて</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 基本操作（Excel）</p> <p>第2回 ワークシートやブックの管理（Excel）</p> <p>第3回 セルやセル範囲のデータの管理（Excel）</p> <p>第4回 テーブルとテーブルのデータの管理（Excel）</p> <p>第5回 数式や関数を利用した演算の実行（Excel）</p> <p>第6回 グラフィック要素の挿入と書式設定（Excel）</p> <p>第7回 グラフの管理（Excel）</p> <p>第8回 総復習（Excel）</p> <p>定期試験実施なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）（富士通エフ・オー・エム 著、FOM出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、各回の小テスト（練習問題、確認問題）および模擬試験の成績にて、総合評価する（100%）</p>			

授業科目名： 情報処理Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：福井 裕 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 本学での学習に必要と思われる基礎的かつ実用的な情報リテラシーを身につけることを目指し、パソコンの操作、および情報処理能力の育成をはかる。			
授業の概要 授業中の課題演習を通じたWord, Excel, PowerPointを中心とした基本的な技術を習得する。			
授業計画 第1回 ガイダンス（メール・ソーシャルメディア、Google Driveの利用等について） 第2回 Wordの基本的な操作方法（1）：イベント実施報告書 第3回 Wordの基本的な操作方法（2）：見積書 第4回 Wordの基本的な操作方法（3）：年賀状 第5回 Excelによるデータのまとめ方（1）：基本的な利用法（VLOOKUP等） 第6回 Excelによるデータのまとめ方（2）：データの並び替え（フィルター機能を用いたデータ抽出、ピボットテーブル機能を用いたクロス集計） 第7回 Excelによるグラフの作成（1）：円グラフ、棒グラフ等 第8回 Excelによるグラフの作成（2）：より高度なグラフの作成 第9回 Excelによるグラフの作成（3）：RESASを活用した地域経済分析（基礎） 第10回 Excelによるグラフの作成（4）：RESASを活用した地域経済分析（応用） 第11回 Excelによるデータ分析（1）：相関分析、単回帰分析、重回帰分析 第12回 Excelによるデータ分析（2）：テクニカル分析と時系列分析 第13回 Excelのソルバーを活用した最適化、行列の取り扱い（2次方程式の解法、制限付き最適化、基本的な行列計算、連立方程式の解法等） 第14回 PowerPointの取り扱い（スライドマスター、アニメーション、図の編集等） 第15回 簡単なプログラミングの演習 定期試験実施なし			
テキスト 30時間アカデミック Office2019 Windows 10対応（杉本くみ子 大澤栄子 著、実教出版）			
参考書・参考資料等 特に指定なし			
学生に対する評価 定期試験を行わず、授業中の課題を中心とした授業への取り組み状況から総合評価する。			

授業科目名： Basic English I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中岡 義久 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>グローバル社会で活躍するために必要な英語コミュニケーション能力を効果的に向上させる。日常生活から専門分野まで幅広い話題を扱い、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語4技能を標準的なレベルまで引き上げ、コミュニケーション力の向上を目指す。また英文と日本語の文法・表現上の違いを比較し、言語の裏にある習慣・文化などの違いを考察することで、より深い理解と運用能力を養う。本授業を通して、自信を持って英語でコミュニケーションを取り、グローバル社会で活躍できる人材へと成長することを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、基礎的な英語文法を復習しながら、英語と日本語の発想の違いを理解し、適切な語彙・文法・構文を用いて表現できる能力を育てていく。具体的には、日常生活から職業や社会など幅広い話題を取り扱い、ペアワーク、グループワークなどを通して、英語4技能を総合的に向上させていく。また自らの考えを発信するだけでなく、読んだり聞いたりした情報に基づいて、論理的に意見をまとめ、議論に参加スキルも学ぶ。さらにタスクベースの演習形式も取り入れることで、実践的コミュニケーション能力を育成していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1回：ガイダンス Activityを通して本講座の目的・進め方・課題の提示などを説明する</p> <p>第 2回：Phonemes 英語と日本語の音声上の違い</p> <p>第 3回：Sentence orderと主語</p> <p>第 4回：表現の違い①敬語法</p> <p>第 5回：表現の違い②提案と拒絶</p> <p>第 6回：語彙用法の違い①名詞・代名詞・限定詞</p> <p>第 7回：語彙用法の違い②動詞とその時制</p> <p>第 8回：日本語と英語の肯定表現と否定表現</p> <p>第 9回：語彙用法の違い③前置詞</p> <p>第10回：発想の違い①</p> <p>第11回：発想の違い②</p> <p>第12回：発想の違い③</p> <p>第13回：文法・構文の違い①</p> <p>第14回：文法・構文の違い②</p> <p>第15回：第1回から第14回までの授業の要点整理・まとめ</p>			

第16回：本講座の目的・進め方・課題・評価等の解説

第17回：能動文、受動文

第18回：進行形文

第19回：完了文

第20回：心理表現

第21回：時制

第22回：英語によるやり取りの実践（1）

第23回：英語によるやり取りの実践（2）

第24回：英語によるやり取りの実践（3）

第25回：自己・他者に対する視点

第26回：「行く」「来る」の表現と実践

第27回：ウチ・ソトの表現

第28回：文章の重心

第29回：接続表現

第30回：第16回から第29回までの授業の要点整理・まとめ

テキスト、著書名

English Composition Based on Comparison between English and Japanese（友繁 義典 著、南雲堂）

参考書・参考資料等

プリント教材を配布することで、授業の幅を広げたり、語彙・文法の定着を促す。また、小テストを実施したり、小エッセイの課題を与えたりする。

学生に対する評価

○活動への参加意欲 及び 課題・Review Testの達成状況 60%

○学期末試験の達成度 40%

授業科目名： 情報処理基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高尾みどり 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年、コンピュータを活用するといった情報処理能力がますます重要となってきた。本講義では、政治経済学部での学習に必要な基礎的かつ実用的な情報処理技術について講義ならびに演習を行い、基礎的な情報処理能力を身につけることを目指す。</p> <p>なお、本講義はMOS（Word・Excel）試験に対応している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各講義では基本的な情報処理能力を身につけていく。各回の講義で習得したスキルは、小テストとして各項の確認問題を解くことによって確認する。また情報処理能力の定着確認のひとつとしてMOS（Word・Excel）模擬試験を自宅学習し、試験結果レポートを提出する。</p> <p>※いずれも提出はLMS（Google Classroom）にて</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 基本操作（Word・Excel）</p> <p>第2回 文書の管理（Word）</p> <p>第3回 文字、段落、セクションの挿入と書式設定（Word）</p> <p>第4回 表やリストの管理（Word）</p> <p>第5回 参考資料の作成と管理（Word）</p> <p>第6回 グラフィック要素の挿入と書式設定（Word）</p> <p>第7回 文書の共同作業の管理（Word）</p> <p>第8回 総復習（Word）</p> <p>第9回 ワークシートやブックの管理（Excel）</p> <p>第10回 セルやセル範囲のデータの管理（Excel）</p> <p>第11回 テーブルとテーブルのデータの管理（Excel）</p> <p>第12回 数式や関数を利用した演算の実行（Excel）</p> <p>第13回 グラフィック要素の挿入と書式設定（Excel）</p> <p>第14回 グラフの管理（Excel）</p> <p>第15回 総復習（Excel）</p>			
<p>テキスト</p> <p>MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）（富士通エフ・オー・エム 著、FOM出版） MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）（富士通エフ・オー・エム 著、FOM出版）</p>			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験を行わず、各回の小テスト（練習問題、確認問題）および模擬試験の成績にて、総合評価する（100%）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村岡 敬明 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の統治機構のシステムと人権保障とについて理解する。 ・日本国憲法の解釈論上の重要な概念を説明できるようになるとともに、主要な論点について問題の所在と通説・判例の論理について学ぶ。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、日本国憲法の内容や特色の解説を中心としながら、我々の市民生活と法の関係のあり方について概説する。憲法は、国家組織の統治・運用のための基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。また本授業では、日本国憲法の解釈を通して、法的なものの考え方を養うことも重視したい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 教養として憲法を学ぶ意義、憲法とは 憲法と国家、立憲主義</p> <p>第2回 日本国憲法制定史 日本国憲法の成り立ち</p> <p>第3回 象徴天皇制 天皇の歴史と現代における存在意義</p> <p>第4回 平和主義 憲法9条の成立過程と解釈の変遷</p> <p>第5回 包括的基本権 幸福追求権の意味と「新しい人権」</p> <p>第6回 法の下での平等 不合理な差別とその是正</p> <p>第7回 精神的自由権① 表現の自由と「知る権利」</p> <p>第8回 精神的自由権② 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由</p> <p>第9回 経済的自由権 職業選択の自由、財産権の保障</p> <p>第10回 社会権 生存権、教育を受ける権利</p> <p>第11回 参政権 選挙権・被選挙権、国民権</p> <p>第12回 国会 国権の最高機関の地位と役割</p> <p>第13回 内閣 行政権、執政権</p> <p>第14回 裁判所 司法権、違憲立法審査権、裁判員制度</p> <p>第15回 地方自治、定期試験の説明 地方公共団体の役割</p> <p>定期試験 筆記試験を実施する</p>			
<p>テキスト</p> <p>教養としての憲法入門（神野 潔 著、弘文堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>憲法学読本（安西文雄 巻美矢紀 穴戸常寿 著、有斐閣）、入門 法と憲法（早田 幸政、ミネルヴ</p>			

ア書房)、ポケット六法 令和6年版 (山下 友信 山口 厚 編集、有斐閣) 憲法第六版 (芦部信喜
著 高橋和之 補訂、岩波書店)

学生に対する評価

定期試験 50%, レポート 35%, 授業への参加態度 15%

授業科目名： スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：杉田 収 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 仲間と協力しながら身体活動の楽しさを感じ取る 2. 生涯スポーツの実践のための知識や態度を習得する 3. スポーツを通して人・仲間・地域づくりを体得する 			
授業の概要			
<p>現代社会におけるスポーツの力（する・みる・支える）や意義を理論と実技を通して強く逞しいクリエイティブな生き方を習得する。体力づくりや基本的なトレーニングの基礎を自らの身体を持って体得する。各種スポーツの基本技能や知識（ルール、戦術、審判法、コーチング法）を習得し、個人やチームで試合ができるようにする。スポーツの楽しさとフェアプレーを体験するとともに、スポーツによる人・仲間・地域づくりを体得し、生涯に亘るスポーツの生活化とスポーツフォーベターライフのスキルを習得する。スポーツを通し将来にわたって社会に寄与することのできる視野・柔軟な発想、行動力、そしてコミュニケーション能力を身につけること。</p>			
授業計画 ※選択種目は人数・実施場所により変更の可能性はある			
第1回 ガイダンス・授業概要の説明 学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説			
第2回 バレーボール オーバーハンドパス			
第3回 バレーボール アンダーハンドパス			
第4回 バレーボール レシーブ			
第5回 バレーボール サーブ・スパイク			
第6回 バレーボール ミニゲーム			
第7回 バレーボール ゲーム			
第8回 バレーボール ゲーム			
第9回 バトミントン 基本練習 グリップの握り方・シャトルコンタクト			
第10回 バトミントン ストローク			
第11回 バトミントン フライト（ショット）			
第12回 バトミントン サーブ 簡易ゲーム			
第13回 バトミントン ダブルス（ゲーム）			
第14回 バトミントン ダブルス（ゲーム）			
第15回 バトミントン シングルス（ゲーム）			
第16回 後期ガイダンス オリエンテーション グループ分け			

第17回	選択種目1	フットサル リフティング・ボールコントロール・2人1組ボレー 卓球 ボールつき (1人・対人・卓球台使用)
第18回	選択種目2	フットサル インサイドキック・ボール回し (3対1) 卓球 フォアハンド・バックハンド
第19回	選択種目3	フットサル 2人1組ボレー・シュート (パス&ゴー) 卓球 サービス・カット・ドライブ・スマッシュ
第20回	選択種目4	フットサル ボール回し(4対2)・簡易ゲーム 卓球 ルール説明・総合練習 (試合形式) ・簡易ゲーム
第21回	選択種目5	卓球・フットサル ゲーム
第22回	選択種目6	卓球・フットサル ゲーム
第23回	選択種目7	卓球・フットサル ゲーム
第24回	選択種目1	バスケットボール パス・ドリブル ソフトバレーボール オーバーハンドパス
第25回	選択種目2	バスケットボール シュート・3×3 (スリー・エックス・スリー) ソフトバレーボール アンダーハンドパス
第26回	選択種目3	バスケットボール シュート・簡易ゲーム ソフトバレーボール レシーブ
第27回	選択種目4	バスケットボール シュート (ジャンプ・レイアップ・ドリブル) ・簡易ゲーム ソフトバレーボール サーブ・スパイク・簡易ゲーム
第28回	選択種目5	バスケットボール・ソフトバレーボール ゲーム
第29回	選択種目6	バスケットボール・ソフトバレーボール ・簡易ゲーム
第30回	選択種目7	バスケットボール・ソフトバレーボール ゲーム
定期試験は行わない		
テキスト		
適宜プリントを配布		
参考書・参考資料等		
特に指定なし		
学生に対する評価		
授業への参加度 (20%)、授業態度 (30%)、授業ノート (50%)		

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：米田 隆 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語運用能力を総合的に養成する授業として、今後の大学での英語学習に必要とされる文法力、語彙力、読解力を身につける。以下の内容を本授業の到達目標とする。</p> <p>1) 日常的で身近な話題について平易な語彙で書かれた英文を読んで理解できる。</p> <p>2) 与えられたトピックや身近な出来事について、学んだ語彙や表現を用いてペアやグループで意見を交換することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大学での学修や研究および社会生活において必要とされる英語の、実践的な基礎力を養成する。</p> <p>授業の方法</p> <p>1) 授業の始めにSmall Talkを行い、日常の身近な話題をペアやグループで話し合う。</p> <p>2) 前時の復習をする。(小テスト)</p> <p>3) パッセージのリーディングを行う前に、取り上げられている話題について知っていることや推測できることなどをグループで話し合う。</p> <p>4) パッセージを素早く読んで内容を把握したり、じっくりと読み込んで英語表現を味わうなど、緩急のある活動を行いながら読解力をつけていく。</p> <p>5) リーディングの後は、内容を自分の言葉でまとめたり、ペアやグループで意見を交換する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 Cross-Cultural Understanding</p> <p>第3回 Unit 2 Foods</p> <p>第4回 Unit 3 Foreign Language Learning</p> <p>第5回 Unit 4 Sports</p> <p>第6回 Unit 5 Fashion</p> <p>第7回 Unit 6 Living Things</p> <p>第8回 Unit 7 Art</p> <p>第9回 Unit 8 Global Issues</p> <p>第10回 Unit 9 Japanese Culture</p> <p>第11回 Unit 10 Human Rights</p> <p>第12回 Unit 11 Health & Medical Issues</p>			

第13回 Unit 12 Environmental Issues

第14回 Unit 13 Economy & Industry

第15回 Unit 14 Legal Issues

定期試験を実施する

テキスト

適宜、資料を配布する

参考書・参考資料等

特に指定なし

学生に対する評価

定期試験 50% 小テスト 20% 口頭発表および課題 30%

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：米田 隆 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語運用能力を総合的に養成する授業として、今後の大学での英語学習に必要とされる文法力、語彙力、読解力を身につける。以下の内容を本授業の到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常的で身近な話題について平易な語彙で書かれた英文を読んで理解できる。 2) 平易な語彙や表現を使いながら、周りの人と意見や考えを交換することができる。 3) 相手に伝わるような表現で英文を書くことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>大学での学修や研究および社会生活において必要とされる英語の実践的な基礎力を養成する。</p> <p>授業の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の始めにSmall Talkを行い、日常の身近な話題をペアやグループで話し合う。 2) 前時の復習をする。(小テスト) 3) メールを読んで、内容を理解する。 4) 様々な表現を学び、自分でも使えるように練習する。 5) メールに返信するという形でライティングの練習をする。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 授業内容の説明、成績の評価方法</p> <p>第2回 Unit 1 Let me introduce myself 自己紹介する</p> <p>第3回 Unit 2 Would you do me a favor? 依頼する</p> <p>第4回 Unit 3 Please give me some advice アドバイスを求める</p> <p>第5回 Unit 4 How about going to the museum? アドバイスや提案をする</p> <p>第6回 Unit 5 Let's decide when to meet 約束する</p> <p>第7回 Unit 6 I have to apologize to you 謝罪する</p> <p>第8回 Unit 7 Room for two? 予約する</p> <p>第9回 Unit 8 I have a problem 苦情を述べる</p> <p>第10回 Unit 9 We would like to invite you to a party! 招待する</p> <p>第11回 Unit 10 How to get to his place? 道案内する</p> <p>第12回 Unit 11 This is just a reminder リマインダーを送る</p> <p>第13回 Unit 12 Thank you for the invitation, but... 誘いを断る</p> <p>第14回 Unit 13 Good luck! 励ます</p> <p>第15回 Unit 14 Congratulations! 祝福する</p>			

定期試験を実施する
テキスト Eメールで学ぶ英文ライティングの基礎（成岡恵子 早野薫 Sean M. Hackett 著、金星堂） （適宜、資料を配布する）
参考書・参考資料等 特に指定なし
学生に対する評価 定期試験 50%、小テスト 20%、口頭発表および課題 30%

授業科目名： AI・データサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大西 匡光 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>この授業では、AI・データサイエンスの歴史を簡単に振り返り、AI・データサイエンスが我々に、これまで何をもたらしたかを正しく把握した上で、近い将来に何をもたらし得るのかを展望したい。その目的のために、AI・データサイエンスにおいて、とくに著しい成果を上げた代表的手法のいくつかについて、適用例を通じて、紹介する。</p>			
授業の概要			
<p>主として人間の知的活動をコンピュータに代替させることを目指した AI（人工知能）は1950年代に登場し、幾度かのブームの波を経ながらも、様々な分野において顕著な成果を上げてきた。ビッグデータというキーワードが登場した2010年代以降は、ディープラーニング（深層学習）、強化学習、等を筆頭とするデータサイエンス（データ科学：統計科学、マイニング / 機械学習）の諸手法が、様々な分野において目覚ましい成功を遂げ、人間の知的活動をも凌ぐ結果を産む存在となっていて、来たるべきSociety 5.0 での核心技術とされている。本授業では、AI についての歴史を簡潔に振り返ったあとに、近年に AI・データサイエンスの分野において著しい成果を上げた手法のいくつかを簡単に紹介したあと、適用例によって、それらの現状と今後の課題について講述する。</p>			
授業計画			
第1回 AI・データサイエンスへの誘い 1 (AI・データサイエンスの活用例Ⅰ)			
第2回 AI・データサイエンスへの誘い 2 (AI・データサイエンスの活用例Ⅱ)			
第3回 AI の歴史 1 (第1次 AI ブーム)			
第4回 AI の歴史 2 (第2次 AI ブーム)			
第5回 様々なデータ			
第6回 機械学習入門 1 (教師有り学習：回帰Ⅰ)			
第7回 機械学習入門 2 (教師有り学習：回帰Ⅱ)			
第8回 機械学習入門 3 (教師有り学習：回帰Ⅲ・分類Ⅰ)			
第9回 機械学習入門 4 (教師有り学習：分類Ⅱ)			
第10回 機械学習入門 5 (教師無し学習：クラスタリング)			
第11回 深層学習 (ディープラーニング) 入門 1			
第12回 深層学習 (ディープラーニング) 入門 2			
第13回 AI と意思決定・最適化			

第14回 強化学習

第15回 AI・データサイエンスの課題

テキスト

教養としてのデータサイエンス データサイエンス入門シリーズ（北川源四郎 他 編集、内田誠一 他 著、講談社）

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

数回予定している小テスト+レポート課題の評価（45%），定期試験の成績（55%）による。

※小テスト，定期試験に持ち込んで良いもの：配付資料，自筆の講義ノート，レポート課題の写し，（四則演算機能だけを用いるための）電卓。

授業科目名： 教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡田広示 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋及び日本の、今日に至る教育の歴史を把握する。 ・ 我が国の学習指導要領の変遷とその特徴を理解する。 ・ カリキュラム・マネジメントや教育評価の特徴とその構造を理解する。 ・ 特別支援教育の概要について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>中等教育に求められる教育原理として、教育の歴史や思想、現代の学校教育に関する内容等について学修をする。教育思想の源流としての西洋古代の教育から始まり、今日の教育までを西洋教育（思想）及び日本教育（思想）を通じて概観していく。そして、今日の学校教育や今後の教育を考察する。講義においては、適宜アクティブ・ラーニングを取り入れ、学修の主体性を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 教育の意義とは</p> <p>第2回：西洋教育（思想）史Ⅰ 古代・中世・近世の教育</p> <p>第3回：日本教育（思想）史Ⅰ 江戸期の武家教育と庶民教育</p> <p>第4回：日本教育（思想）史Ⅲ 明治期の教育と大正期・昭和戦前期の教育</p> <p>第5回：日本教育（思想）史Ⅳ 昭和戦後期・平成期の教育</p> <p>第6回：学習指導要領にみる教育課程の変遷①</p> <p>第7回：学習指導要領にみる教育課程の変遷②</p> <p>第8回：学習指導要領にみる教育課程の変遷③</p> <p>第9回：近代教育への批判</p> <p>第10回：カリキュラム開発とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第11回：カリキュラム・マネジメントのためのPDCAサイクル</p> <p>第12回：特別支援教育について</p> <p>第13回：教育評価の基礎基本①</p> <p>第14回：教育評価の基礎基本②</p> <p>第15回：教育の新しい流れ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

教育の見方・考え方（石村卓也 伊藤朋子 共著、晃洋書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業内レポート及び授業態度（約30%）、定期試験（約70%）などを勘案し総合評価をする。

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡田広示 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義、教員としての使命、自覚など 2. 教育専門職としての在り方 3. 服務制度 4. チーム学校としての学校組織の在り方、チーム・ビルディング 5. チーム学校としての校長・教員の職務と役割 6. 学習指導要領に対応した学習指導の在り方（アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、各教科、特別の教科道徳など） 7. 教職に就くため教員採用試験に対する理解など、「これからの教職の在り方」について議論し考察 			
授業の概要			
<p>教職入門としての「教職の意義」、戦前戦後を通じて議論されてきた「教師論」、地方公務員、教育公務員としての「教員の服務」、戦前戦後を通じて構築されてきた「教員養成制度」、教員採用試験の理解を図る「教員採用試験」、教員研修にかかる「資質能力向上と教員研修」、チーム学校としての「学校組織」、チーム学校における「校長・教員の職務と役割」、今後の学習指導の在り方を問う「カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニング」、さらに小学校・中学校・高等学校における「各教科、外国語活動と教科 外国語、特別の教科 道徳」教科外指導及び特別支援教育等の「特別活動、特別支援教育、生徒指導、学級経営」、最後に、探究学習として「総合的な学習に時間」を取り扱う。教育方法については、グループワークやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングを重視し、学修の主体性を指すものである。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：本講義の目的・目標、教育方法、教材、評価など			
第2回：教職の意義：教職の誕生、先生・教師・教諭など、教職の特殊性・意義、使命など			
第3回：教師論：戦前の天職的聖職者、師範型など、戦後の専門職者論など、求められる教師像等			
第4回：教員の服務：服務の根本基準、服務義務の意義・違反例など、分限と懲戒			
第5回：教員養成：師範学校拡充などの教員養成制度、開放性による戦後の教員養成制度			
第6回：教員採用：公立小中高教員需要数、筆記・面接試験等			
第7回：資質能力向上と教員研修：意義、特殊性、研修権問題、種類と体系、服務など			

<p>第8回：学校の組織1：組織の意義等、校務分掌、職員会議、チーム学校の組織</p> <p>第9回：学校の組織2：チーム学校の実現、チーム・ビルディング、職務のデザイン</p> <p>第10回：校長・教員等の職務と役割：職務と役割、チーム・マネジメント、効果的なチームの要素、チームワーク、リーダーシップ、チーム・マネジメントの問題</p> <p>第11回：学習指導1：カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的・深い学び（アクティブ・ラーニング）、意義、具体例、今後の学習指導の在り方、学習指導案の工夫など</p> <p>第12回：学習指導2：各教科、「外国語活動」・「教科 外国語」、「特別の教科 道徳」の意義、見方・考え方、概要等、指導の在り方等</p> <p>第13回：学習指導3：特別活動、生徒指導、学級経営、特別支援教育の意義、見方・考え方、概要等、指導の在り方等</p> <p>第14回：学習指導4：「総合的な学習の時間」における探究活動の意義、見方・考え方、概要等、指導の在り方等</p> <p>第15回：まとめ：チーム学校における教員の職務と役割組織の在り方、今後教員に求められる資質能力等</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か（石村卓也 伊藤朋子 著、晃洋書房）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（およそ70%）、授業態度等（およそ30%）から総合的に評価を行う。</p> <p>※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。</p>

授業科目名: 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:野崎洋司 担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法・教育基本法を基幹とする教育関係法規の全体構造を把握し、我が国の教育制度を体系的に理解する。 ・学習者自身のこれまで自己形成に学校教育がどのような作用を及ぼしたかを客観的に分析することができる。 ・教育行政・制度に関する知識と視点を身につけ、リーガルマインド(法的素養)をもって現実の教育課題を考察する資質を身につける。” 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法、教育基本法を基幹とする教育関係法規を学習し、これらに準拠する形で教育制度が組織されていることを解説する。 ・教育委員会制度や学校制度の改革、学校・家庭・地域住民の連携促進や特別支援教育の制度改革などを、社会的背景と併せて説明する。 ・教育法規に関する基礎的知識の定着を図るため、毎時、小テスト(前回の授業の内容)を実施する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回:教育基本法の構成と内容</p> <p>第2回:学校教育に関する法規</p> <p>第3回:教育行政に関する法規</p> <p>第4回:教職員に関する法規 ①(教職員の服務・義務)</p> <p>第5回:教職員に関する法規 ②(教職員の資質向上)</p> <p>第6回:学校運営に関する法規と制度 ①(学校の運営及び管理)</p> <p>第7回:学校運営に関する法規と制度 ②(学校組織と校務分掌)</p> <p>第8回:学校運営に関する法規と制度 ③(指導要録と学校保健安全)</p> <p>第9回:学校、家庭、地域住民の連携と協力</p> <p>第10回:教育課程と学習指導要領</p> <p>第11回:教育課程と教科書、補助教材</p> <p>第12回:児童生徒に関する法規 ①(就学と在籍、卒業)</p> <p>第13回:児童生徒に関する法規 ②(懲戒と出席停止)</p> <p>第14回:児童生徒に関する法規 ③(いじめ、不登校、児童虐待)</p> <p>第15回:学校に関する法規Ⅱ 学校の設置基準と認可定期試験 定期試験</p>			

テキスト

法規で学ぶ教育制度論(古川薫 山下晃一 著、ミネルヴァ書房)

参考書・参考資料等

・最新の『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』『特別支援学校学習指導要領』(各文部科学省)

・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

小テスト(30%)授業態度(10%)、定期試験(70%)による総合評価とする。

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒岩 督 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育は社会・文化への参加と創造の一過程であり、教育心理学はひとの「学びと育ち」が成立する仕組みを明らかにし、それを教育実践の改善に役立てるという視座から、この過程の探究に寄与しようとする学問である。本授業のねらいは、「学びと育ち」に関するさまざまな心理学的理論や知見を学習し習得するとともに、児童生徒の発達をふまえ、その主体的・能動的な「学びと育ち」を支える教師の実践的力量的基礎となる考え方を理解し、教育についての認識を深めることである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育場面における効果的な学習指導やそれを支える学級経営に求められる心理学的理論と知見を教示する。「学び育つ主体」、「学びと育ちのプロセスとメカニズム」、「学習指導と学習評価」、「学び育つ場と教師」のテーマに即して、理論や知見を教示していく。「人はどのように成長・変容していくのか」、「学ぶとは、教えるとはどのような営みなのか」、「よりよい教育とは何か」といった問いへの探求を深めるために、学校現場の教育課題に主体的に対応していくための実践的力量的形成の基礎となる見方や考え方についてもふれながら進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学と教育実践</p> <p>第2回：生得と習得（学習，成熟，発達の意味と相互関係）</p> <p>第3回：個性と社会性の発達</p> <p>第4回：認知機能，学習能力の形成と発達</p> <p>第5回：適応と障害</p> <p>第6回：知識獲得と認知発達</p> <p>第7回：知性の機能と発達</p> <p>第8回：情意の機能と発達</p> <p>第9回：教育の方法</p> <p>第10回：学習指導と学習評価① 教授技術と学習指導の過程</p> <p>第11回：学習指導と学習評価② 教科指導と学習支援の実際</p> <p>第12回：学習指導と学習評価③ 学習評価の方法</p> <p>第13回：学びの場と教師① 教育の社会的意味と学習指導観の変遷</p> <p>第14回：学びの場と教師② 教師の役割と子ども理解</p> <p>第15回：学びの場と教師③ 学級経営と学習集団の組織化</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

学校教育と学習の心理学（秋田喜代美 坂本篤史、岩波書店）

教育心理学（鹿毛雅治（編）、朝倉書店）

学習指導の方法と技術（西林克彦他 編、新曜社）

学校教育の心理学（北尾倫彦他 編、北大路書房）

学生に対する評価

次の2つを総合して評価する。

①授業への関与度（関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価）（50%）

②定期試験（50%）

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川田 和子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 発達期の子どもの障害に関わる知識を身につける ② 特別支援教育の理念と制度に関わる知識を理解する ③ 特別支援学校・特別支援学級における教育課程、教育内容・方法の基本を理解する ④ 障害児理解と支援のあり方の基本を学ぶ ⑤ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援 ⑥ 特別支援の未来像について考える 			
授業の概要			
<p>本授業は特別支援教育の理念、特別支援教育の制度と教育内容に関して基本的な理解を身につけるとともに、障害と障害児理解や支援のあり方について理論と実際の両面から学ぶ。同時に共生社会に向けてのインクルーシブ教育への展望を考える。</p>			
授業計画			
<p>第1回：障害を持つ子どもの理解、知的障害児教育</p> <p>第2回：肢体不自由児教育、視覚障害児教育</p> <p>第3回：聴覚障害児教育、重複障害児教育</p> <p>第4回：病弱児教育と院内学級（自立活動を含む）、知的障害児と特別支援学級（自立活動を含む）</p> <p>第5回：肢体不自由児と特別支援学級（自立活動を含む）、自閉症・情緒障害児と特別支援学級（自立活動を含む）</p> <p>第6回：AD/HDやLD等の発達障害児と通級指導教室、発達障害児の実態と療育（自立活動を含む）</p> <p>第7回：特別支援学級の現状と諸課題、障害はないが特別なニーズを持つ子どもの支援</p> <p>第8回：共生社会に向けてのインクルーシブ教育</p>			
定期試験			
テキスト			
(教員と教員になりたい人のための)特別支援教育のテキスト (小林倫代 他 著、学研教育みらい)			
参考書・参考資料等			
特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 (平成29年4月、文部科学省)			
特別支援学校 高等部学習指導要領 (平成31年2月、文部科学省)			
学生に対する評価			
定期試験40%、授業内でのレポート・課題等30%、平常点(授業への意欲・関心・主体性、			

グループワークでの活動) 30%

授業科目名: 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:野崎洋司 担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の構造と基本原理を理解し、教育課程編成のための理論や技能を習得する。 ・学習指導要領と教育課程との関係を理解し、学校種や児童生徒の実態に合わせた指導計画を作成することができる。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における教育課程の果たす役割、機能、意義を理解する。 ・教育課程編成の基本原理と学校の実態に応じた教育課程編成の方法を理解する。 ・教育課程編成の知識と技能の習得に向けて、ICT 機器を活用した双方向型・対話型学習を行う。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回:教育と社会の関係</p> <p>第2回:教育課程の構造と基本原理</p> <p>第3回:学習指導要領と教育課程(1)(歴史と変遷)</p> <p>第4回:学習指導要領と教育課程(2)(現行の学習指導要領の特徴)</p> <p>第5回:教育評価</p> <p>第6回:カリキュラム・マネジメント</p> <p>第7回:SDGs達成に向けた教育課程編成</p> <p>第8回:教科教育の教育課程と教育評価</p> <p>第9回:道徳教育の教育課程と教育評価</p> <p>第10回:外国語活動・外国語科の教育課程と教育評価</p> <p>第11回:総合的な学習の時間・探究の時間の教育課程と教育評価</p> <p>第12回:特別活動の教育課程と教育評価</p> <p>第13回:特別支援教育と教育課程編成</p> <p>第14回:幼児期の教育と保育</p> <p>第15回:保幼小の接続／諸外国の教育課程</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>教育課程論・教育評価論(木村裕 古田薫 編著、ミネルヴァ書房)</p> <p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』『特別支援学校学習指導要領』(各文部科学省) 			

・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業内課題(30%)授業態度(10%)、定期試験(70%)による総合評価とする。

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

授業科目名： 道徳理論と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：國嶋智行 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①道徳教育の制度的な位置づけと、学校教育におけるその意味と役割について基礎的な事項を理解する。</p> <p>②道徳教育を支える思想や理念についての基礎的理解にもとづき、道徳の授業がいかにあるべきかを理解する。</p> <p>③道徳の授業が成立するための具体的な知識や技法を習得する。</p> <p>④道徳の授業における資料の分析方法、学習指導案作成の手順、発問や話し合いの方法について理解を深める。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、教科や総合学習・特別活動と道徳教育との関係、生徒指導の場における道徳教育、道徳の時間の運営の各領域にわたってわが国の教育実践例を知り、欧米における道徳教育改革の動向をも踏まえて、道徳教育実践の基礎的能力を身につける。また、戦前・戦後の道徳教育の変遷をたどり、さらにこれまでの道徳教育実践に学び、今、求められる「道徳の授業」とは何かを検討する。また、実際に「道徳の時間」の指導案を書き、模擬授業をすることも視野に入れ講義をすすめる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：今日における道徳教育の課題</p> <p>第2回：学校教育における道徳教育の構成</p> <p>第3回：道徳教育と家庭の問題状況</p> <p>第4回：道徳教育と地域の問題状況</p> <p>第5回：子どもの発達と道徳性の形成</p> <p>第6回：道徳教育の倫理的・哲学的・心理学的基礎</p> <p>第7回：日本における道徳教育の歴史</p> <p>第8回：学習指導要領と道徳教育</p> <p>第9回：道徳性の発達と道徳の授業</p> <p>第10回：道徳教育の教材と指導過程(情報機器の活用)</p> <p>第11回：道徳教育の指導案作成と模擬授業①(道徳内容「自分自身に関すること」を題材とする)</p> <p>第12回：道徳教育の指導案作成と模擬授業②(道徳内容「他の人とのかかわりに関すること」)</p> <p>第13回：道徳教育の指導案作成と模擬授業③(道徳内容「自然や崇高なもののかかわりに関すること」)</p> <p>第14回：道徳教育の指導案作成と模擬授業④(道徳内容「集団や社会とかかわりに関すること」)</p>			

第15回：講義のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年7月 文部科学省)

参考書・参考資料等

中学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編(柴原弘志 編著、明治図書)

学生に対する評価

学習指導案(70%)、レポート(20%)、授業態度(10%)

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長須正明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標：特別活動の活動内容の取扱い及び指導計画の作成などについて知識 を深める。そのうえで特別活動及び総合的な学習の時間の全体計画を作成し、各教科等との関 連を検討する。さらに中学校や高等学校の教員として、実践的に特別活動及び総合的な学習の 時間の研究を深めるとともに、具体的な場面でどのようにして生徒に指導・助言するかについ ての能力を高める。			
授業の概要：特別活動及び総合的な学習の時間への関心を高めるとともに、指導上の課題を解説 する。学習指導要領（新学習指導要領）を検討し、具体的な実践事例等に触れることにより、 特別活動及び総合的な学習の時間の実践的な指導力を身に付けさせる。実際に指導する場面を 想定した学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。			
授業計画			
第1回：「特別活動」及び「総合的な学習の時間」についてのガイダンス（特別活動、特別活 動の目標と内容、教育的意義、総合的な学習の時間との関連）			
第2回：教育課程と特別活動及び総合的な学習の時間（特別活動の変遷：特別活動及び総合 的な学習の時間と道徳教育：総合的な学習の時間の改定の趣旨及び要点）			
第3回：特別活動及び総合的な学習の時間と生徒指導（特別活動及び総合的な学習の時間の指 導の実際と生徒指導上の課題）			
第4回：特別活動及び総合的な学習の時間と進路指導（キャリア教育との関連）			
第5回：「主体的・対話的で深い学び」を通じた人間関係づくり（特別活動、総合的な学習の 時間）			
第6回：総合的な学習の時間の指導計画の作成（「探求課題」と「考えるための技法」）			
第7回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成			
第8回：総合的な学習の時間の学習指導			
第9回：学級・ホームルーム活動の指導案の作成			
第10回：生徒会活動の目標と内容			
第11回：生徒会活動の指導計画と指導の実際及び実践上の課題			
第12回：学校行事の目標と内容			
第13回：学校行事の指導計画と指導の実際及び実践上の課題			
第14回：特別活動及び総合的な学習の時間と学級経営（学級づくりの意義と具体的な方法）			
第15回：特別活動及び総合的な学習の時間の評価とその意義（まとめ）			
定期試験は行わない			

テキスト：特別活動の理論と実際（河村茂雄 長須正明ほか、図書文化社）

参考書・参考資料等：

最新の『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編・特別活動編』『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編・特別活動編』（文部科学省）

その他、授業や課題に関連したプリント資料を配布する。

学生に対する評価：レポートまたはエッセイ（70%）と毎時間のリアクションペーパーおよび授業への積極的参加態度（30%）を総合して100点満点として評価する。

授業科目名: 教育の方法技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:小孫 康平 小谷 雅彦 担当形態: オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育問題等に関心を持ち、多面的・多角的な見方や考え方ができる。 ・教育方法及び技術について、その歴史的概観、学習指導の形態について説明できる。 ・他者と協働し授業設計を行うとともに、学習指導案や教材・資料が作成できる。 ・ICT教材の活用に関する基礎的な知識や技能を活用することができる。 			
授業の概要			
<p>①教育の方法:指導と学習の視点で、教育史・思想および多様な教育実践について体験を通して学習する。②教育の技術:指導計画や授業設計、今求められている様々な指導法や評価について学習する。③情報機器や教材・教具の活用:最新の情報や理論的背景、実践的事例を紹介し、理解を深める。なお、講義回によっては、動画や学習支援アプリ等の活用、グループワークも取り入れて行う。また、教育メディアの利用を通じて、自らのICT活用能力の向上をはかるとともに、教育効果を高めるための情報機器及び教材の活用についても修得する。</p>			
授業計画			
第1回:オリエンテーション(授業概要及び学習目標の解説), 現代社会における ICT の役割と導入(担当:小谷・小孫)			
第2回:授業とその捉え方(担当:小孫康平)			
第3回:教師の学びと対話(担当:小孫康平)			
第4回:設計する授業のイメージ(担当:小孫康平)			
第5回:授業設計の方法と手順(担当:小孫康平)			
第6回:授業の省察と反省(担当:小孫康平)			
第7回:授業の特徴と相互評価(担当:小孫康平)			
第8回:学習指導案の作成と発表(担当:小孫康平)			
第9回:学習指導の実際と教育技術(1)教員の働きかけと生徒の学習活動(担当:小谷)			
第10回:学習指導の実際と教育技術(2)学びの場の成立、学習集団づくり、情報モラル(担当:小谷)			
第11回:学習指導の実際と教育技術(3)「わかる授業・おもしろい授業・考えさせる授業」の構造(担当:小谷)			
第12回:学習指導の実際と教育技術(4)協働学習およびアクティブ・ラーニングの指導(担当:小谷)			
第13回:学習指導の実際と教育技術(5)教材提示の方法、生徒の思考を整理する板書等の表現方法(担当:小谷)			

第14回:学習指導の実際と教育技術(6)教育におけるICT活用の実際①(担当:小谷)

第15回:学習指導の実際と教育技術(7)教育におけるICT活用の実際と演習②(担当:小谷)

テキスト

最新の『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)

教育の方法と技術 Ver.2 (改訂版)(稲垣忠 他8名 著、北大路書房)

また、適宜スライド資料等プリントを使用。

参考書・参考資料等

情報通信技術を活用した教育の理論および方法(西野和典 編著、実教出版)

資質・能力と学びのメカニズム(那須正裕 著、東洋館出版)

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

2名の担当者がそれぞれ独立に評価をつけ、その相加平均を成績とする。

【小孫】授業態度(30%)授業内課題(40%)・レポート(30%)

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

【小谷】授業内課題(20%)・授業後のリフレクション(20%)・レポート(40%)・

グループワーク発表(10%)・自己評価(10%)等で総合的に評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長須正明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>生徒指導は、一人一人の児童・生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通して行われる重要な教育活動である。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。この授業では、生徒指導・進路指導・キャリア教育について、その原理・方法を理解するとともに、現実に即して、生徒指導、進路指導・キャリア教育の問題から学校教育について考察する。現在、学校現場で起こっている様々な問題について、「教員の視点」に立ち、教員としての自分の考えを持ち、それを諸規定に照らして吟味し、現実に即して自分の言葉で表現して、諸問題の解決の方向性や方策を方法論も踏まえて提案できるようになることがこの授業の到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>最近の学校現場では「社会化」(socialization)の機能低下が顕在化している。具体的には不登校、低学力といった「不適応」とともに様々な形で現れる「問題行動」がある。こうした問題の背景には個人的な要因の他に明らかに社会的要因がある。この授業では、毎時間「ケース」(事例)を挙げて問題に即して法規的根拠、人権への配慮、具体的な指導法の各視点を理解したうえで、受講者と教員がディスカッションしながら「よりよい指導法」とその根拠を模索する。当事者性を持つこと、教員としてどうするか自分の意見を持つことなどを重視して、問題に複眼的にアプローチする。また、「生き方としてのキャリア」の視点から「社会の中を生きる個人」として自己の生き方設計および他者へのアドバイスを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・・・生徒指導とはどんなことか？</p> <p>第2回：生徒指導の意義と役割</p> <p>第3回：生徒指導の歴史的変遷</p> <p>第4回：自己指導能力</p> <p>第5回：生徒指導（学校の生活指導）はどこまで有効なのか？</p> <p>第6回：生徒指導の体制・・・「チーム学校」としての生徒指導</p> <p>第7回：問題行動（1）反社会的問題行動</p> <p>第8回：問題行動（2）非社会的問題行動</p> <p>第9回：生徒理解のための指導と教育相談</p> <p>第10回：発達障害と特別支援教育（*ここまでの授業内容に関してレポート「生徒指導」を作成・提出）</p> <p>第11回：進路指導とキャリア教育</p> <p>第12回：ライフスタイルとワークスタイル</p> <p>第13回：社会的環境と適性</p>			

第14回：自己のキャリア・デザインと教育相談

第15回：授業の総括・・・発達の視点に立つ生徒指導と進路指導・キャリア教育の展開

*レポート2「キャリア・デザイン」を作成・提出

定期考査は行わない

テキスト：

①生徒指導提要（改定）（令和4年12月、文部科学省）

②生徒指導・進路指導の理論と実際（改訂版）（河村茂雄 長須正明ほか、図書文化社）

参考書・参考資料等：

①すべての若者が生きられる未来を（宮本みち子 編、岩波書店）

②教育相談の理論と実際』（河村茂雄 長須正明ほか、図書文化社）

③地方に生きる若者たち（石井まこと 宮本みち子 阿部誠 編、旬報社）

学生に対する評価

レポートまたはエッセイ（70%）と毎時間のリアクションペーパーおよび授業への積極的参加態度（30%）を総合して100点満点として評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長須正明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>将来、学校現場において必要となる個別及び集団への教育相談活動の基礎を学び、カウンセリングを含む教育相談活動を正しく理解し、児童や保護者が悩む心理的諸問題等に対し正しく助言を与えたり支援したりすることができるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自己理解、他者理解をすることで人間的成長をめざしていく。教育相談を行うにあたり、自分自身の振り返りによって自身を見つめ直し、さらに、教育相談を展開する上での基礎的知識を身に付け、教育相談にあたる者としての技術的向上をめざす。</p> <p>学校内外の連携やケース会議の進め方などをグループワーク等で体験し、教育相談についての理解を深め、実践的な学校臨床力の向上もめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育相談とは何か</p> <p>第2回：自己理解、他者理解について</p> <p>第3回：教師モードと教師カウンセラーモード</p> <p>第4回：カウンセリングに役立つ発達理論及び児童精神医学の基礎</p> <p>第5回：教育相談・カウンセリングの技法1（来談者中心療法の理論）</p> <p>第6回：教育相談・カウンセリングの技法2（来談者中心療法のロールプレイ）</p> <p>第7回：不登校の理解と支援（行かない不登校／行けない不登校に対する対応）</p> <p>第8回：発達障害の理解と支援（アセスメントと対応／諸機関との連携）</p> <p>第9回：教育相談と特別支援教育</p> <p>第10回：スクールカウンセラーの活用と協働</p> <p>第11回：保護者対応（障害受容／アセスメントの実施に対する同意等）</p> <p>第12回：事例検討①（学習の問題／友人・人間関係等の事例と対応について協議）</p> <p>第13回：事例検討②（家庭の問題／経済問題等の事例と介入・対応について協議）</p> <p>第14回：事例検討③（進路・キャリアデザインの問題／生き方・あり方の問題の事例と対応）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート（４０％）、事例検討課題（４０％）、授業態度（２０％）を総合的に評価する

※授業態度は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2単位	担当教員名：長須正明、西田宗作、岡田広 示、梅本尚		
			担当形態：クラス分け・複数		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人(4クラスで実施)					
教員の連携・協力体制 教務部及び教育実習委員会が全般的な運営に当たる。1クラスを教職に関する科目担当教員と、教科に関する科目担当教員が協力して担当する。					
授業のテーマ及び到達目標 教員として必要な基礎的資質の形成に関し、以下の4項目を確認する。 1. 教育に対する情熱・使命感・責任感を持ち、子どもに対する教育的愛情が豊かであること。 2. 社会性、対人関係能力、コミュニケーション能力が適切であること。 3. 子ども理解や学級経営等に必要な能力の基礎を身につけていること。 4. 教科等の指導力の基礎を身につけていること（ICTの活用を含む。）。					
授業の概要 当演習は、教職の実務経験者による演習で、全学年を通じた「教員をめざす者としての学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。 当演習を通じて各学生は、今までの自己の学びの過程を振り返ることで自らの課題を明らかにする。また、子ども理解、教科等指導、学級経営などに関する内容を取り上げ、討論、ロールプレイ、模擬授業（ICTの活用を含む。）、事例研究などを行うことで、自己の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補いその定着を図ることで、教職生活をより円滑にスタートできるようになることをめざす。					
授業計画 授業計画 第1回：オリエンテーション 講義の目的と概要（ICTの活用を含む。） 第2回：教育実習（生活指導面）の振り返り 履修カルテの確認1 第3回：教育実習（教科指導面）の振り返り 履修カルテの確認2 第4回：学級経営1 学級経営案の作成 第5回：学級経営2 レポート発表、ディスカッション 第6回：地域・家庭との連携1 ロールプレイ 第7回：地域・家庭との連携2 レポート発表、ディスカッション 第8回：いじめ・不登校への対応1 ロールプレイ 第9回：いじめ・不登校への対応2 レポート発表、ディスカッション 第10回：特別な教育的支援を要する子どもへの姿勢 事例研究 第11回：教科等の指導1 学習指導案の提出、模擬授業1 第12回：教科等の指導2 学習指導案の提出、模擬授業2 第13回：教科等の指導3 学習指導案の提出、模擬授業3					

第14回：教科等の指導4 レポート発表、ディスカッション

第15回：これからの教育と自己の課題 討論、最終レポート執筆

定期試験は行わない。

テキスト

教職課程「履修カルテ」、大和大学教育実習ガイド[本冊]・[分冊]、教育実習簿

参考書・参考資料等

新編 教えるということ（大村はま 著、ちくま学芸文庫） 新版 教師になるということ（池田修 著、学陽書房）

学生に対する評価

・「課題（各回のレポート）の内容50%+取組の姿勢50%」を基本とする。

※取組の姿勢は、関心・意欲・積極性・主体性の観点から評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。